



Toyo University Volume 9 April 2025

Supporters News

サポーターズニュース

東洋大学
寄付報告書
第9号 2025年4月発行
www.toyo.ac.jp



東洋大学

理事長挨拶

東洋大学のために皆様から日頃より頂いているご支援ご協力に感謝申し上げます。

本学は、赤羽台キャンパスの開設に続く朝霞キャンパスの再編や大学院研究科・学部・学科・各附属学校の改革を、皆様のご支援をいただきながら実行してまいりました。2021年には「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を制定し、法人全体でSDGsに貢献すべく取り組んでおります。

昨今は、地球温暖化等の環境の変化や世界的な政治経済情勢の激しい変化、止まることのない技術革新、ますます厳しくなる海外を含めた大学間の厳しい競争等の確かな対応が求められており、次なる中長期の計画を実施していく段階に入っております。

私たちは、未来ある学生と共に生き、彼らの未来に役立つことは何かを考えています。世の中の新しいニーズや学生のニーズに応えると同時に、変化に対応できる能力を磨き続けていける人材を輩出し続けられるよう、世界に目を広げ、同時に世界の目で日本を見ながら更なる革新を進めてまいります。

今後とも、東洋大学の取り組みにご理解、ご協力いただき、ご支援を賜りますようお願いいたします。



学校法人東洋大学
理事長 安齋 隆

学長挨拶

東洋大学の教育・研究活動に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

お陰様で、2024年度はパリオリンピック・パラリンピックを始めとして、多くのスポーツにおいて学生たちの大活躍がありました。さらに、2022年からのウクライナ学生及び研究員の受け入れや、昨年発生した能登半島地震の被災地への学生ボランティアの派遣など、社会的課題に向き合う活動にも温かなご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

本学は、今年4月に、総合情報学部総合情報学科を3専攻に再編します。また、2027年に向けて、環境に関わる新たな学部設置と新校舎の建設により、川越キャンパスが生まれ変わります。これにより、教育と研究の大きな改革を進めるとともに、「未来を哲学する、東洋大学」という言葉を柱に、創立150周年に向け、大学一丸となって未来を拓いてまいります。

不安定な時代を生きていくうえで拠り所となるのは、本学の建学の精神が意味する「哲学する」ことであろうと考えます。それぞれの人生を生き抜くための手がかりを学生たちが得られるように、学びの場を提供し続けたいと思います。

そして、すべての学生がキャンパスライフを楽しみ、様々な学びと経験の先に、社会へ踏み出すための確実な力を身につけるための「総合知教育」を推し進めることが、私たちの責任となります。

これからも、皆様に応援していただける大学であり続けるために努力してまいります。

今後ともご指導ご支援のほど、よろしくようお願い申し上げます。



東洋大学
学長 矢口 悦子

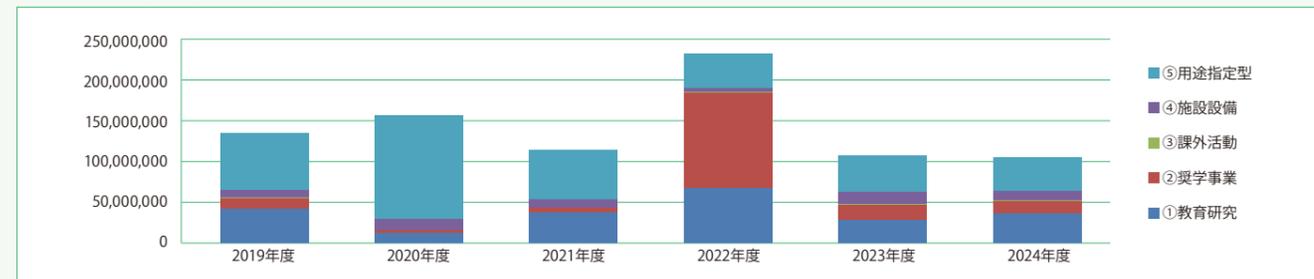
1 過年度寄付金比較

[表1: 指定事業別]

事業	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	件数	金額										
①教育研究	298	41,263,450	128	12,562,000	408	40,571,000	771	66,653,772	726	34,130,143	795	35,096,512
②奨学事業	69	12,385,555	90	2,469,000	150	4,619,000	597	117,832,000	649	13,938,000	679	14,731,000
③課外活動	16	221,500	14	222,000	27	500,020	23	445,000	18	365,000	41	859,000
④施設設備	48	9,134,010	41	13,176,000	54	6,435,000	44	5,463,000	47	11,796,000	63	11,366,000
⑤用途指定型	1,309	68,803,184	1,881	125,045,543	2,134	56,244,675	926	41,276,192	959	43,583,664	1,296	39,708,229
合計	1,740	131,807,699	2,154	153,474,543	2,773	108,369,695	2,361	231,669,964	2,399	103,812,807	2,874	101,760,741

※件数: 1回の入金で複数の事業を指定した場合、件数も複数カウントとなる。

[グラフ1: 指定事業別年度比較]



[表2: 対象者別]

対象	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	件数	金額										
卒業生	320	34,197,373	1,283	20,305,460	1,572	24,023,471	1,368	27,962,887	1,385	29,193,111	1,507	27,667,008
保証人(父母)	1,130	12,936,000	84	2,905,000	724	13,001,000	566	10,401,100	551	7,922,000	754	9,949,000
法人	119	50,001,766	111	46,420,000	100	42,244,532	90	67,360,215	88	41,700,602	98	42,699,150
団体	34	17,452,600	19	24,721,083	29	4,023,692	22	2,100,262	34	1,650,094	25	2,950,488
篤志家	37	212,960	33	915,000	62	850,000	104	7,018,500	97	3,151,000	297	3,372,095
役員・評議員	31	10,660,000	62	14,660,000	86	17,545,000	53	12,620,000	96	13,640,000	63	11,595,000
教職員	66	5,237,000	554	41,478,000	196	6,552,000	157	104,202,000	140	3,916,000	127	3,398,000
在学生	3	1,110,000	8	2,070,000	4	130,000	1	5,000	8	2,640,000	3	130,000
合計	1,740	131,807,699	2,154	153,474,543	2,773	108,369,695	2,361	231,669,964	2,399	103,812,807	2,874	101,760,741

※件数: 1回の入金で複数の事業を指定した場合、件数も複数カウントとなる。

※団体: 校友会、雨水会、後援会、〇〇ゼミ有志などを計上。

2 用途指定型詳細

[表3: 支援事業別]

支援事業	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
A.学部教育	958	13,799,800	54	1,369,306	542	8,680,535	290	5,513,500	276	5,634,000	428	7,421,000
B.大学院研究	39	638,800	29	745,000	49	1,890,000	26	450,610	24	4,015,000	26	1,395,000
C.外国人留学生	17	363,000	18	1,042,000	16	917,000	108	14,275,908	54	1,737,000	23	170,000
D.ボランティア・社会貢献	23	336,000	18	156,000	8	142,000	10	360,000	43	2,020,000	25	800,000
E.学生生活	24	725,000	1,567	102,078,845	1,043	18,894,831	86	1,733,831	61	1,628,831	49	738,831
F.強化指定運動部	222	27,417,774	170	18,838,277	356	22,641,309	378	18,672,343	435	27,686,833	637	27,613,398
G.研究・プロジェクト	5	1,405,000	5	271,000	6	470,000	3	120,000	5	240,000	3	250,000
H.図書館の充実	6	23,811,310	8	69,560	6	550,000	3	30,000	9	100,000	11	178,000
I.公認団体	15	306,500	12	475,555	108	2,059,000	22	120,000	52	522,000	94	1,142,000
合計	1,309	68,803,184	1,881	125,045,543	2,134	56,244,675	926	41,276,192	959	43,583,664	1,296	39,708,229

[表4: A.学部教育]

文	経済	経営	法	社会	国際	国際観光
630,000	415,000	1,715,000	762,000	430,000	205,000	255,000
(円)						
情報連携	ライフデザイン	理工	総合情報	生命科	食環境科	福祉社会デザイン
715,000	50,000	1,614,000	150,000	170,000	100,000	130,000
健康スポーツ科	合計金額					
80,000	7,421,000					

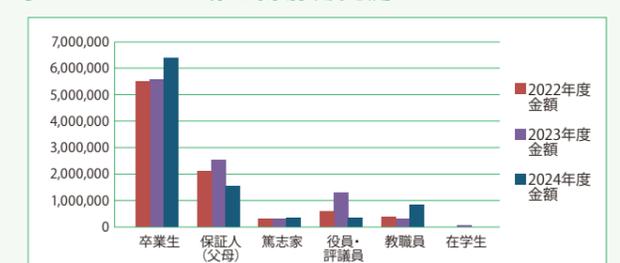
[表5: F.強化指定運動部]

硬式野球部	陸上競技部(男子長距離)	陸上競技部(男子短距離)	陸上競技部(女子長距離)	アイススケート部(ホッケー)	アイススケート部(スピード)	アイススケート部(フィギュア)	レスリング部	空手道部	スキー部	
1,893,000	11,157,526	599,000	2,527,777	150,000	0	10,000	745,000	210,000	10,000	
相撲部	ボクシング部	サッカー部(男子)	サッカー部(女子)	水泳部	柔道部	ラグビー部	バスケットボール部	剣道部	卓球部(女子)	合計金額
3,200,000	1,503,000	1,955,095	1,250,000	566,000	110,000	1,367,000	180,000	60,000	120,000	27,613,398

[表6: Team TOYO募金対象別]

対象	2022年度		2023年度		2024年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
卒業生	398	5,540,000	434	5,605,000	471	6,370,000
保証人(父母)	166	2,125,000	195	2,560,000	198	1,560,000
篤志家	22	310,000	22	325,000	22	350,000
役員・評議員	13	570,000	66	1,310,000	41	350,000
教職員	23	390,000	21	325,000	27	850,000
在学生	-	-	2	40,000	-	-
合計	622	8,935,000	740	10,165,000	759	9,480,000

[グラフ2: Team TOYO募金対象別年度比較]



飛躍のシーズンへ。
確かな自信と感謝を胸に、
日本一を目指す。



ラグビー部監督 福永 昇三 × ラグビー部主将(総合情報学部 総合情報学科3年) ステファン・ヴァハフォラウさん



Interview

皆さんの応援を力に、
日本を代表するサッカー選手を
目指します。

2025シーズンからJリーグの
アルビレックス新潟に加入！
プロサッカー選手になる
稲村選手に
お話を伺いました。



国際観光学部 国際観光学科4年
稲村 隼翔さん (2023年に2025年の加入内定と
アルビレックス新潟の特別指定選手として認定)

出身地: 東京都
出身高校: 前橋育英高等学校

2024年度の試合で自身の納得いく試合は？
東洋 リーグ戦*の全試合(インカレ*は調子が出ず仲間に感謝)
新潟 9/14 湘南ベルマーレとのホームゲーム
*リーグ戦: 関東大学サッカーリーグ戦 1部 *インカレ: 全日本大学サッカー選手権大会

— まずは、ラグビー部の2024年度の活動報告をお願いします。

福永 関東大学ラグビー1部昇格から3シーズン目となる2024年度は、チームとして大きな成長を遂げた一年となりました。東洋大学史上最高となる関東大学ラグビーリーグ戦2位という成績は、選手たちの努力の結果であり、誇りに思っています。しかし、全国大会では大変悔しい結果となってしまいました。チームの目標はあくまでも日本一。2025年シーズンは、さらなる飛躍を目指します。

ステファン リーグ戦2位という成績は、選手たち個々人の成長だけでなく、OBの皆様をはじめとする、ファンの皆様の温かいご声援・ご支援があったからこそのものだと思っています。全国大会は悔しい結果に終わってしまったので、この悔しさをバネに、今シーズンはさらに上を目指し、チーム一丸となって精進していきたいです。

— 日々の指導・練習において特に心掛けていることは何ですか？

福永 「凡事徹底」をテーマに、基本プレーから一つひとつ丁寧に、そして真剣に取り組むよう指導しています。また、フィールド内外を問わず、あらゆる場面で「見られている」という意識を持つことで、選手たちの責任感と自覚を促し、より高いレベルでプレーできることを目指しています。強みは何と言ってもチームワークの良さ。選手同士の信頼関係も厚く、明るい雰囲気の中で練習に取り組んでいますので、あとは大舞台でも普段通りのパフォーマンスを発揮できることが大切だと考えています。

ステファン 日々の練習から常に心掛けているのは「恩返しをする」ということです。私たちがラグビーに打ち込んでいるのは、両親をはじめ、OB、ファンの方々、そして大学関係者の皆様など、多くの方々の支えがあってこそ。その感謝の気持ちを忘れず、練習に励むようにしています。また、キャプテンとしてチームをまとめるためにコミュニケーションも重要だと感じています。先輩方の背中を見て学んできたことを活かし、後輩たちの気持ちにも寄り添いながら、チーム全体を鼓舞していきたいと思っています。

— 寄付による支援は、ラグビー部でどのように活用されていますか？

福永 皆様からいただいた寄付は、チームの象徴であるユニフォームの購入費用に充てさせていただいています。具体的には、公式戦で着用する紺と白の2種類のユニフォーム、そして短パンとソックスです。選手たちは、皆様の熱い思いが込められたユニフォームを身に纏い、プライドと責任感を持ってプレーしています。皆様のご支援が、選手たちのモチベーション向上にも繋がっていることを実感しています。

— 支援者の方々に向けてのメッセージ、また今後の目標をお聞かせください。

ステファン いつも熱い応援をいただき、本当にありがとうございます。グラウンドに足を運んでくださる皆様、遠くからエールを送ってくださる皆様、そして寄付を通じてご支援くださる皆様、すべての方々に感謝しています。結果で恩返しができるよう全力を尽くします。個人としては、技術の向上はもちろんのこと、人間的にも成長し、より良い選手、より良い人間になれるよう努力していきます。チームとしては、一丸となって戦い抜き、日本一を目指します。皆様と喜びを分かち合えるよう全力を尽くしますので、引き続き熱い応援をよろしくお願いいたします。

福永 東洋大学ラグビー部は、まだまだ成長過程のチーム。しかし、選手たちは皆、大きな可能性を秘めており、必ずや飛躍していけるものと信じています。皆様の温かいご支援と熱い応援は、選手たちの成長を後押しし、チームを勝利へと導いてくれます。これからも、選手たちの成長を見守り、応援していただけますと幸いです。また、私たちの目標は、関東大学ラグビーリーグ戦優勝、そして全国優勝です。毎年恒例となっている全国大会決勝の舞台に立ち、メディアに東洋大学のユニフォームが大きく掲載される日を目指して全力を尽くしますので、引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

(取材日: 2025年2月27日)

— 2024年度は東洋大学サッカー部とJリーグのアルビレックス新潟、2チームで活躍したシーズンでした。貴重な経験をした1年だったかと思いますが、まずは東洋大学サッカー部としてどんなシーズンでしたか。

シーズン前半は天皇杯やリーグ戦でなかなか勝てず、厳しかったです。でも、このチームは右肩上がりに調子を上げるチームだと信じていました。実際に、夏以降は後輩が成長したこと、自分を含め上級生がチームを引っ張ったことでチームの調子がどんどん上がり、リーグ戦で3位、インカレで優勝という結果を残すことができました。

— シーズン中にチームが成長できたのは、何が大きい要因だったのでしょうか。

東洋大学サッカー部は、他校に比べると少数精鋭で、部員間の競争が目に見えてわかりやすく、全員で切磋琢磨し上を目指していく環境になっています。また、井上監督が部員一人ひとりをよく見て、プレー面はもちろん、周囲を引っ張る選手としての在り方などを指導してくださるので、個人としても特に人間力の部分では部員・チームも大きく成長できたと思っています。

— 選手個人として、大学リーグとJリーグ、2つのピッチに立ってきた経験をどのように感じていますか。

がむしゃらに目の前のことに取り組んできたタフな一年でしたが、大きな成長に繋がったと思っています。こんな経験ができたのも、シーズン途中からアルビレックス新潟へ帯同することに、監督をはじめチーム全員が快く送り出してくれたからで、本当に感謝しています。だからこそ、Jリーグで経験したことをサッカー部に持ち帰るぞ、という思いで全ての試合に臨んできました。技術面だけでなく、チーム全体で強くなるマインドをどう作るかとか、特にピッチ内外での振る舞い方です。サッカー部に戻った時はチームを安心させられるような声かけ・話しかけ等で言動・行動で影響を与えること、また、まとめるためのリーダーシップを発揮するように心掛けてきました。

— アルビレックスに帯同したYBCルヴァンカップでのプレーには、大学関係者だけでなく、アルビレックス新潟サポーターの方々からも、東洋大学への寄付・メッセージが数多く集まったそうですね。

寄付件数の多さを聞いて驚きました。これだけ多くの方々から自分達を応援してくれているのだということがとても嬉しく、背筋が伸びる思いになりました。応援してくれる方々がいるからこそ、自分達はサッカーができていますので、感謝を伝えたいですし、応援や期待に応えられるよう、頑張っていきたいと思っています。

— 新潟のテレビ局や新聞社から東洋大学にたくさんの取材依頼が来たようです。

東洋大学サッカー部が自分をきっかけとして、注目してもらえたことも嬉しかったです。大学内でも他の運動部と比較して、正直、まだまだ話題に上がることが少ないです。ただ、サッカー部も負けなくらい頑張っていますし、チームも成長しているので、ぜひ今後とも多くの方に注目していただいて、引き続きご支援をいただけたらと思っています。

— 最後に、稲村選手の今後の目標を教えてください。

2025シーズンからは、アルビレックス新潟の背番号3として本格的に活動することになるので、チームスローガンである「新潟史上最高」を体現する一員として、しっかりパフォーマンスを発揮してチームに貢献したいです。また、長期的な目標としては、東洋大学初となるサッカー日本代表として日の丸を背負えるような、世界を舞台に活躍できる選手になりたいです。そのためには、全てにおいて自分をより高いレベルに持っていくことが必要不可欠ですし、ピッチ上でのワンタッチ・ワンプレーで自分の存在価値を示していかなければならないはずです。これまで以上に厳しい道のりだとは思いますが、自身の人生をかけて高みを目指していきますので、ぜひ応援していただけたら嬉しいです。

(取材日: 2025年2月13日)

Study Abroad

日本のおもてなしの心を世界に届けていける存在に



国際観光学部 国際観光学科3年
新谷 実佑さん
留学期間：2024年8月～12月
留学先：ティオ応用科学大学（オランダ）

教育研究支援 東洋大学海外留学促進奨学金「グローバルリーダー型」

外国語や異文化への関心が高かったことに加えて、国際観光学部でホスピタリティを専攻する中で、日本のおもてなしが海外でどう評価されるのかを知りたいという強い好奇心が芽生え、本格的に留学を検討するようになりました。

留学先に選んだのは、日本とは真逆の文化を持つオランダのティオ応用科学大学での1学期間の長期留学。オランダには、日本のようないわゆる「察する文化」はなく、全てをストレートに表現することが求められます。最初は戸惑いもありましたが、言葉選びに気を配りながら正直な意見を伝えることこそが、円滑なコミュニケーションの鍵なのだと思ふことができました。

グローバルリーダー型奨学金の受給は、金銭的な支えとしてはもちろんのこと、日々の学習意欲を高める原動力にもなりました。留学準備中には、東洋大学国際寮のレジデンス・アシスタントなどとしても活動。勉学との両立は大変さもありましたが、実践的な英語力を磨くことができたと思っています。

将来の夢は、「日本と世界の架け橋となるような存在」となり、働くことです。留学を通じて、協調性や他者への配慮など、日本ならではの良さも再認識することができたため、今後はそういった日本のおもてなしの心を世界に届けていける存在になれたらと考えています。

最後に、奨学金制度を通じてご支援くださった皆様に心から感謝申し上げます。皆様のご支援を忘れることなく、周りの人々、そして社会に貢献できる人間を目指し、夢の実現に向けて努力を続けてまいります。（取材日：2025年2月28日）

用途指定型支援 ボランティア・社会貢献支援（能登半島ボランティア支援）

能登半島のボランティア活動に参加しようと思ったきっかけは、ニュースで復興が遅れていることを知り、少しでも力になりたいと感じたからです。また、私自身が南海トラフ地震への対策の必要性を日頃から感じており、このボランティア活動での経験が将来必ず役に立つと思えたことや、参加に際する資金援助があったことなども、参加への大きな後押しとなりました。

初めてのボランティアだったため、参加にあたっては震災発生直後からのニュースを改めて見直すなどの現状把握に努めたほか、能登の歴史や文化に関する論文にも目を通し、知識を深めてから現地に向かうことを意識していました。

実際に現地で活動してみた結果、自身が想像していた以上に、復興の遅れが深刻であるという事実を肌で感じる事ができました。今回の主な活動内容は力仕事でしたが、被災された方々の精神的なケアなども、ボランティアが担える大切な役割だと思っています。将来は、この度のボランティア活動で得た経験を活かし、公務員となって災害に強い社会づくりに貢献していきたいと考えています。

大学としてこのような災害支援の活動を行っており、そこに賛同して下さる方々が多くいらっしゃることはとても素敵なことだと思いますし、実際にご支援くださっている皆様には感謝を申し上げます。能登半島の復興に向けては、自分自身にできることを考えながら、今後も継続的な支援をしていけたらと思っています。

Volunteer

ボランティア経験を活かし災害に強い社会づくりに貢献したい



文学部 史学科3年 伊東 航洋さん
活動内容：能登半島ボランティア活動
活動期間：2024年8/4-8/8, 10/11-10/14, 11/1-11/4（計3回）
※ボランティア実施時の学年

用途指定型支援 外国人留学生支援（ウクライナ学生等支援）

この学びをウクライナの未来へ繋げます

文学部国際文化コミュニケーション学科 Hashpan Edhar（ガシバン エドガー）さん
協定校名：Taras Shevchenko National University of Kyiv

私の夢は、ウクライナと日本が互いをより深く理解し合うことです。皆様のご支援のおかげで、日本での学びと経験を得ることができました。この貴重な機会を活かし、ウクライナの未来に貢献していきたいと考えています。ウクライナの平和のため、日本をはじめ世界中の支援に感謝しながら、前へ進みます。支えてくださった皆様、本当にありがとうございます。

詳しい体験談はQRコードからご覧ください
URL https://kifu.toyo.ac.jp/contribution/specific/global_students/ukraine/



つなぐ・つながる『チーム 東洋』

Team TOYO 募金報告書 2025

2022年4月からスタートしたTeam TOYO募金は、3年が経過しております。

これまでに多くの卒業生や保護者、篤志家の皆様のご支援をいただきご協力いただく卒業生オーナー企業は、初年度15社、2年目は19社、3年目は23社そして2025年からは24社と卒業生の輪を広げさせていただいております。人気の返礼品も多数揃っておりますのでご参考にしていただきお申込みください。ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。卒業生、保護者、卒業生オーナー、大学関係者をつなぐ輪は、強くたく繋がりが広がっています。

卒業生オーナーのご紹介

母校愛あふれる全国各地の皆様へ



中国料理店 二胡々亭（茨城県）

店長 池辺 昭子さん [短期大学観光学科 1991年卒]



返礼品の人気の餃子と焼売は具だくさんかつジューシー！

調理する主人とともに稼業の四川料理に日々創意工夫を



地元牛久にて、地元食材を使った料理で皆様に笑顔になっていただきたいという思いのもと、『中国料理店二胡々亭（にこにこてい）』を運営しています。青春時代を過ごした東洋大学附属牛久高校、そして東洋大学短期大学時代の思い出は、とにかく「楽しかった」一言。卒業後も、校友会茨城県支部、高校の同窓会などを通じて東洋大学とはご縁があり、母校への愛着は年々深まっています。卒業生の一人として「東洋大学や在校生たちを応援したい」と考えていた折に、Team TOYO募金を知り、参加を希望しました。今では返礼品提供という形で母校に協力できていることが嬉しいです。また、返礼品のお申込みをいただく度に、母校愛あふれる方々が多くいらっしゃることを実感し、とても感動しています。中には2度、3度とリピートして下さる方もいて、当店のスタッフ一同にとっても大きな喜びです。こだわりの餃子・焼売を通じて、少しでも東洋大学に貢献できれば嬉しいですし、皆様からの温かいご支援を通じて、東洋大学がより発展していくことを心から願っています。

在学時、大学の奨学金制度を活用させていただきとても助かりました。当時の学生生活が充実した日々であったことを思い出し、わずかですが寄付することを決めました。在学中は誠にありがとうございました。これからも東洋大学のご活躍とご発展をお祈りしております。

稲村選手を応援している者です。今後も育成に尽力されまして、素晴らしいサッカー選手を育てて下さることを願っております。

ボランティア支援の皆様ありがとうございます。東日本大震災時に私もボランティアに1日だけ参加しましたが、体力がなく全く思っていたような活動ができませんでした。貴方がたの若い力が頼りです。少額で大変申し訳ありませんがほんの少しでも力になれたらと思います。

2024年度「感謝の集い」を開催いたしました。

2025年3月17日（月）、白山キャンパスで多大なご支援をしてくださった皆様をお招きし『感謝の集い』を開催いたしました。当日は17:00より125記念ホールで感謝状及び記念品の贈呈、18:00より8号館地下1階学生食堂で懇親会を実施いたしました。懇親会では理事長挨拶、法人・教員紹介、学長挨拶の後、硬式野球部の井上大、相撲部の荒木関賢吾、ラグビー部の福永昇三、陸上競技部長距離部門の酒井俊幸、レスリング部の前田翔吾の5人の監督から日頃のご支援に対する感謝の意をお伝えさせていただきました。続いて、パリオリンピック女子レスリング76キロ級で金メダルを獲得した鏡優翔さんから「熱い声援のおかげで金メダルを獲得することができました」と挨拶があり会場から拍手が送られました。また、春の選抜高校野球大会に出場する東洋大学附属姫路高等学校の前大森茂樹校長先生から「選抜に向けてご支援ご声援をお願いしたい」と力強い挨拶がありました。

【顕彰・感謝状贈呈対象（2024年1月1日～2024年12月31日）】
■ 顕彰 貢献学資1名 ■ 感謝状・記念品贈呈 個人 39名 法人 21名



サッカー部(男子)

全日本優勝という栄冠も、皆様のご支援があってこそ。

サッカー部(男子)は、第98回関東大学サッカーリーグ戦において1部リーグ3位という好成績を達成。そして、全国の強豪が集う第73回全日本大学サッカー選手権大会においては、創部以来初となる「優勝」の栄冠を手にし、同時にフェアプレイ賞も受賞することができました。これだけの輝かしい成績を収めることができたのは、選手・チームの成長だけでなく、日頃より温かい応援で支えてくださる方々がいらっしゃったからこそだと感じています。皆様からいただいた寄付は、チーム強化のためのトレーニング器具(ミニゴール等)の購入、そして全日本大学サッカー選手権大会決勝ラウンド、決勝トーナメント遠征(12泊13日)の費用補助などに活用させていただきました。改めて、皆様からのご支援に心より感謝を申し上げます。2025年度も今シーズンの結果に満足することなく、関東大学サッカーリーグ戦でのさらなる上位進出を目指し、部員・スタッフ一同精進してまいります。皆様の変わらぬご支援・ご声援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



サッカー部(女子)

チームとしても、選手個人としても、大きな飛躍を叶えた1年間。

2024年度、サッカー部(女子)は関東大学女子サッカーリーグにおいて、見事優勝を果たすことができました。同リーグでは、小林※1がMVPと得点王をダブル受賞、楠が新人賞を受賞したほか、ベストイレブンには実に6名(小林※1、落合※2、宮本、稲山、長尾、楠)が選出されるという快挙を達成。さらに、全日本大学女子サッカー選手権大会においても、3位という好成績を収めることができました。選手個人の活躍も目覚ましく、落合※2、小林※1、稲山の3名は特別指定選手に選出。また、落合※2、小林※1、宮本の3名は、WEリーグ(プロ)へ進むことも決定しています。皆様からいただいた寄付金は、全日本大学女子サッカー選手権大会への遠征費用として活用させていただきました。皆様からのご支援が、今シーズンの選手たちの、そしてチームの飛躍を力強く後押ししてくださったことは言うまでもありません。2025年度は、リーグ戦、全日本選手権ともにより高い目標を目指し、挑戦を続けてまいります。今後とも、変わらぬご支援・ご声援をどうぞよろしくお願いいたします。



※1

※2

東洋大学教育・研究協力資金募金 寄付者芳名録

東洋大学教育・研究協力資金募金にご協力いただきありがとうございます。
芳名録は、東洋大学寄付サイト>芳名録ページにて公開しております。(毎月更新)
下記URL又はQRコードから東洋大学寄付サイトをご覧ください。

URL <https://kifu.toyo.ac.jp/privilege/name/>

